

第3回千歳科学技術大学の公立大学法人化の検討に関する有識者会議
議事録概要

- 1 日時 平成29年6月26日（月） 午後2時00分から午後5時30分まで
- 2 場所 千歳市役所議会棟2階 大会議室
- 3 出席者 委員8名 欠席者 委員1名（小貫委員）
〈委員名簿〉

職名等	氏名
【委員長】 前釧路公立大学 学長	小磯 修二
【副委員長】 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事	尾谷 賢
【委員】 北海道経済産業局 地域経済部 地域経済課長	小貫 秀治
【委員】 北海道千歳高等学校 校長	増田 雅彦
【委員】 千葉崇晶税務会計事務所 公認会計士・税理士	千葉 崇晶
【委員】 千歳商工会議所 工業振興委員長	三ツ野 仁
【委員】 千歳工業クラブ 副代表幹事	大久保 亘
【委員】 千歳市町内会連合会 副会長	井上 英幸
【委員】 千歳市 副市長	横田 隆一

4 議題

- (1) 大学改革について
- (2) 新たなビジョンについて
- (3) 財務運営について
- (4) その他

5 委員からの意見の要旨

千歳科学技術大学及び事務局からの説明により、千歳科学技術大学の大学改革の構想を認識いただいた上で、各委員からの意見を募った結果は以下のとおり。

- まずは大学設立からこれまでの20年弱の中での問題や課題を検証し、それを克服しなくては、今後に向けての新たなビジョンを実現していくことは難しいのではないかと。
- 経済的という一つの視点で見ると公立大学法人化することは理解できる。しかし、それ以外の課題などが公立大学法人化することで解決されるわけではないのではないかと。
- 大学が地域のセンター的な、いわゆる地域のブレーンとしての役割を担いながら社会貢献していくことが大学の在り方として大切なことである。
- 千歳科学技術大学で学べば、日本全国どこへ行っても、あるいは世界でも活躍できる人材が輩出できる大学になるとよい。日本全国から注目されるような大学であってほしい。
- これまで19年大学を運営してきて、なかなか上手くいかなかったものが、単に公立大学法人化したからといって上手くいくというものではない。現状の私学としての経営の課題をしっかりと

と検証して、改善していく必要があるのではないか。

- 大学全体が経済的に厳しくなるということであるが、教職員の方々が本当に危機感を持ってやられているのか。
- 教職員のカリキュラム体系も含めて、大学のビジョンが時代のニーズに合っているかどうかを常に評価・検証し、探求していく組織を大学の中にするのができたらいいのではないか。
- 公立大学の経営は基本的に国立や大規模な私立に比べると身の丈に合った慎ましい経営が基調としてなければならない。
- 公立大学法人化となれば、中期計画という6年での計画に沿って今後の大学を運営していかなければならないが、そこでは千歳市が責任をもって基本的な方針や考え方を示していかなければならない。
- 公立化しても市には管理能力はあるが経営能力はないので、外部の力を入れて経営力を付けた方がよいのではないか。
- 市や市民にとってプラスになる素晴らしい取組があれば、一般財源を使って大学の投資に充てるという考え方もあってよいのではないか。
- 千歳科学技術大学がどういう大学になるのかについては、大学と市の双方でしっかりと詰めていく必要がある。
- 大学が何を指すのか、場合によっては、千歳科学技術大学というネーミングを変えるくらいの基本的な議論が必要ではないか。
- 新たな取組を実施するのであれば、学内の教職員だけでなく外部から有識者を招くことも検討すべきではないか。
- 魅力ある大学でないと、公立大学法人化しても、結局10年20年先にまた同じような課題が出てくるだろう。今の大学にさらにどのような魅力を生み出すのかという検討は必要である。
- 今後どういう形で魅力ある大学づくりができるか、どういう大学を目指すのか、そこに千歳市の政策がどのように関わっていくかという体系的な議論を市においてもしなければならないのではないか。
- しっかりとした議論ができるよう大学に関する市の窓口は一元化すべきではないか。
- 千歳市民の税金を投入して作った以上、千歳市民みんなで支えていくべきである。

－ 以上 －